

これからの正義の土台

(社) 暮らしのResearchセンター
会 長 福 嶋 等

日本ではしばらく前から、論語の読者が増えてきていた様ですが、昨年頃からは、正義に関する本が出廻るようになり、なかにはベストセラー入りするほどの人気本まで現れました。

正義とは、個人の日常的な幸福追求などとはレベルを異にする社会全体の根本原理となる概念です。いま、正義すなわち社会の在り方の基本から問うべきだ、そうした気運が出てきているのだと思います。

古代都市文明の時代に、仏教、儒教、ギリシャ哲学、ユダヤ・キリスト教によって、人類の普遍思想が樹立されて以来、その大本に、近代革命さらには国際連合の今日に至るまで、社会変革の都度、理念が附加されてきました。

いまの日本は、まだ目前の利益追求の価値観で溢れているという段階です。かつては政治家も、曲がりなりにも、「国家百年の計」を唱えていたものです。建前だけでもそうあって欲しいものですが、遠い過去のことになりました。世界中がそうになっています。グローバリゼーションや格差社会への対応をめぐっても、あらゆる国で意見は分裂しているのです。いずれにおいても長期展望が困難なため、視野は短期的となります。目先のことであればあるほど争奪合戦は激しくなります。大目的はなく正義とはほど遠い次元です。

日本では政治改革は始まっていますが、代表制民主主義にはそれなりの限界もあります。多数決から本当に優れたアイディアは生まれません。政治に要求するだけでなく、各界が主体性を発揮し、民間も役所もそれぞれ創意を積み重ね、新しい流れを少しずつつくって、理念出現の土壌を醸し出すという道筋だろうと思います。

昨年ノーベル化学賞を受賞された鈴木、根岸両先生は、その発明について特許権を取得しようとされませんでした。触媒という非常に実用範囲の広い分野の画期的発明でありながら、その対価を求めようとはされなかった。「世界に飛翔せよ！ただ利益は貪るなかれ！」——そう、態度で示された。私たちはこうした高潔な姿勢を頂門の一針とするとき、世界に向かって「これからの正義の話をしよう」と言い出せそうあります。

新年に入り、児童養護施設にタイガーマスクの名前で贈り物が届けられ、それが各地に伝播しています。どこでも人々は隣人愛を保持していることが鮮明になりました。頼るべき土壌は健在と思われず。

それぞれの持ち場で、閉塞感に風穴を空ける年になりますよう、皆さんの御活躍を期待申し上げる次第です。当センターも環境や企業の社会的責任の問題に引き続きとり組んで参ります。一層の御指導のほどお願い申し上げます。

(2011年1月7日) 賀詞交歓会挨拶